

東日本大震災 対策本部情報

86号

2011/05/14

盛岡地本一関支部ボランティア活動

陸前高田市小友町柳沢地区で炊き出し

「東海新報」に掲載される！

盛岡地本一関支部は、5月7日に組合員・家族22名が陸前高田市小友町の柳沢公民館で豚汁120人分などをつくり炊き出しを行いました。その活動が5月8日の「東海新報」（陸前高田市、大船渡市、住田町の地元紙）に掲載されました。



以下記事から抜粋

支部は、東日本大震災後に釜石や気仙沼をはじめ岩手・宮城の両県でボランティア活動を行っている。今回は、同組合員である柳沢出身者の家族が被災しているため、同地区を訪れたという。メンバーは組合員から集めた支援物資も積んで現地入りした。……野中執行委員長は「ここもJRの路線が通っていた地域。何年かかるか分からないが、復興が形として見えるようになるまで継続的に支援を行っていきたい」としている。同地区の高橋自治会長は「炊き出しをしてもらったのは初めて。私たちもそろそろ自立を目指さなければならない時期に来ているが、水がまだ通っていないので助かりました」と話していた。

援を行っていきたい」としている。同地区の高橋自治会長は「炊き出しをしてもらったのは初めて。私たちもそろそろ自立を目指さなければならない時期に来ているが、水がまだ通っていないので助かりました」と話していた。



一関支部は、陸前高田市、釜石市、気仙沼市でのボランティア活動や被災した組合員宅の片付けなど、組合員とともにしています。鉄道の復旧は被災地区の復興の第一歩となります。今後も住民の復興に向けた支援を続けていきます。

JR 東労組